

TOP NEWS

医療技術部 ソーシャルワーカー部門について

医療技術部長 渡邊 千秋

医療技術部ソーシャルワーカー部門

2022年4月に、北海道大学病院医療技術部にソーシャルワーカー部門が新設されました。

医療技術部を設置している21大学病院の中でも、ソーシャルワーカー部門の設置はとても少ないのですが、各部署で活動しているソーシャルワーカー同士の相互補助や、処遇改善を目指し一丸となって活動しており、院内での役割や信頼も大きくなっております。

所属メンバーは、社会福祉士、精神保健福祉士といった国家資格を有する専門職で、患者・家族の経済・心理・社会的な問題の解決に向けて福祉の立場で相談援助を行っております。

社会福祉士は病院全体で12名、精神保健福祉士は精神科神経科に4名、司法精神医療センターに2名所属しております。当院では各ソーシャルワーカーが専門領域別に配置されているため、所属部署毎に紹介させていただきます。



医療技術部ソーシャルワーカー部門について

《 所属部署のご紹介 》

地域医療連携福祉センター

社会福祉士と看護師が共同し、外来および入院患者さんの療養生活に関するご相談に応じています。病状や生活状況を把握し、ご希望に添って患者さんの転院先を探す、介護や生活のサポートが必要な方のサービスを手配し自宅退院に向けて支援する、経済的な不安がある場合には利用できる制度をご紹介しますなど、多岐にわたるご相談に対応します。各種チームにも参加し、患者支援が円滑になるよう活動しています。

直通：011-706-7943

がん相談支援センター

がん相談支援センターは、がんに関する相談窓口であり、看護師、社会福祉士が、がん治療や療養生活全般のご相談に対応しています。院内外を問わず、がん患者様、ご家族、地域の方どなたでも利用でき、相談費用は無料です。北海道大学病院では、がん患者さんの交流の場である患者サロン「なないろ」も定期開催しております。どうぞお気軽にお問合せ下さい。

直通：011-706-7040

高次脳機能障害相談窓口

リハビリテーション科は北海道における高次脳機能障害支援拠点機関として位置づけられ、リハビリ支援コーディネート事業を委託されています。専門外来を配置し、支援コーディネーターとしてソーシャルワーカーが1名従事し、全道各地から寄せられる患者、家族、支援機関からの相談に対応しています。具体的な支援としては入院、通院を通して確定診断や評価を行い、地域生活に向けた社会支援の他、普及啓発目的に研修等も企画、地域でのケース会議なども行っております。

リハビリテーション科外来：011-706-7010

精神科神経科

精神科神経科では、精神科治療チームの一員として精神保健福祉士が、個別ケース対応、退院促進、人権擁護、精神科リハビリテーションへの参加、手続きや社会資源の見学同行等院外業務、地域連携、災害派遣精神医療チームなど様々な業務を担っております。精神科医療における福祉の専門職として、患者さんやご家族が安心して生活ができるために必要なことを一緒に考え、整えていくお手伝いをさせていただいております。

医療福祉相談室

主な業務は、自立支援医療などの医療費助成に関わる制度の説明及び受付業務です。また、高額療養費制度など福祉全般の相談にも応じており、相談は無料で予約不要です。電話や個室での相談にも応じておりますので、安心してご利用いただけます。特に、生活保護受給者に関する対応が多く、福祉事務所と連携を図り、様々な対応を行っております。専門的な知識を持った職員が対応致しますので、お気軽にご相談ください。

直通：011-706-5646

小児がんチーム

当院は2013年2月から小児がん拠点病院に指定されており、小児がんに関する相談窓口として社会福祉士が配置されています。

相談内容は、医療費などの経済的不安やご家族の事、教育・保育、脱毛に関する事等多岐にわたります。小児に限定した医療費助成や支援制度、ウィッグの無償提供などもあり、適切な時期に助成や支援が受けられるようサポートしています。また、教育支援として院内学級の調整や、治療を終え元の学校へ戻る際の復学支援もしています。

直通：011-706-7758

HIV診療支援センター HIV相談室

当院は、1997年に北海道エイズ治療拠点病院に指定され、HIV相談室が設置され、看護師、臨床心理士、ソーシャルワーカーが配置されています。また、HIV医療の質向上を目指し、出張研修や、ホームページ等での情報発信、拠点病院間の連携を図り北海道全体で支援できるように働きかけています。また、北海道 HIV福祉サービスネットワークを立ち上げ、地域との関係機関とのつながりを大切に活動しています。

直通：011-706-7025

北海道大学附属司法精神医療センター

当センターは北海道初の医療観察法指定入院医療機関として2022年4月に開棟いたしました。医療観察法は、精神障害のために善悪の区別がつかないなど、刑事責任を問えない状態で、重大な他害行為を行った人に対し、適切な医療を提供し社会復帰を促進することを目的とした制度です。センターにおいて精神保健福祉士は、社会復帰調整官と連携しながら、退院後の通院医療機関や地域の各支援者と社会復帰に向け援助を進めております。

小児科外来診療グループのご紹介

高度化する小児医療に対応するため、10の専門グループが外来診療を行っています。また時代のニーズに応えるため積極的に成人への移行期医療に取り組んでいます。

免疫グループ

先天性免疫異常、膠原病は以前より専門的に診察してまいりました。加えて今はアレルギー性疾患にも力を入れており、当院がアレルギーセンターを開設しましたがその小児部門を担うに至っております。お気軽にご相談下さい。

血液・腫瘍グループ

白血病、脳腫瘍を含む固形腫瘍、造血幹細胞移植を3つの柱として診療しております。治療後遠隔での維持療法や血液成分の補充などは外来治療で入院を減らす努力などもしております。また緩和ケアにも力を入れておりお気軽にご相談下さい。

神経グループ

病院のてんかんセンターの中核を担っており、てんかんの手術適応を含めた高度てんかん診療に対応しております。また神経筋疾患、脊髄性筋萎縮症の先進的加療も行い成果を上げております。お気軽にご連絡下さい。

腎臓グループ

学校検尿の精検対象をはじめとした検尿異常、ネフローゼ症候群、先天性腎尿路奇形、ループス腎炎など多岐に渉る紹介疾患を診療しております。また腎不全時の透析などの治療管理に当たっております。お気軽にご相談下さい。

内分泌・糖尿病グループ

甲状腺・副腎・下垂体・性分化・副甲状腺・骨系統疾患、成長障害、糖尿病など幅広く診療しており、特に小児がん経験者の晩期合併症としての内分泌異常について、血液グループの先生と協力して診療しています。お気軽にご相談下さい。

新来・再来 医師当番表

	月		火		水		木		金	
	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM
1診	血液 真部 淳		神経 白石 秀明	神経 白石 秀明	循環器 武田 充人	循環器 武田 充人	血液 真部 淳(2)	発達支援 古瀬 優太	血液 平林 真介	血液 平林 真介
2診	代謝 小杉山 清隆(2,4)	代謝 小杉山 清隆(2,4)	血液 長 祐子	血液/移植長期 長 祐子	内分泌・糖尿病 中村 明枝	内分泌・糖尿病 金子 直哉	血液 平林 真介	血液 平林 真介	腎臓 岡本 孝之	腎臓 岡本 孝之
3診	循環器 佐々木 大輔	循環器 佐々木 大輔	内分泌・糖尿病 中村 明枝	内分泌・糖尿病 中村 明枝	神経 白石 秀明	神経 白石 秀明	山澤 弘州	循環器・腫瘍循環器 山澤 弘州	免疫 竹崎 俊一郎	免疫 竹崎 俊一郎
4診	血液 長 祐子	血液 長 祐子	内分泌・糖尿病 菱村 希	内分泌・糖尿病 菱村 希	新生児フォローアップ 兼次 洋介	新生児フォローアップ 兼次 洋介	腎臓 佐藤 泰征(1,3,5) 鈴木 諒太(2,4)	腎臓 佐藤 泰征(1,3,5) 鈴木 諒太(2,4)	新生児フォローアップ 本庄、瀬戸、武田、橋本	新生児フォローアップ 本庄、瀬戸、武田、橋本
5診	神経 江川 潔	神経 江川 潔	遺伝 外木 秀文(1,3) 感染 石黒 信久(2,4,5)	神経 植田 佑樹	内分泌・糖尿病 金子 直哉	心理検査 後藤 亜矢子	新生児フォローアップ 古瀬 優太	心理検査 後藤 亜矢子	内分泌・糖尿病 森川 俊太郎	内分泌・糖尿病 森川 俊太郎
6診	血液 寺下 友佳代	血液 寺下 友佳代	免疫 植木 将弘	免疫 植木 将弘	免疫 山田 雅文	神経 香坂 忍	免疫 竹崎 俊一郎(4)/ 大畑 央樹(1,2,3,5)	免疫 竹崎 俊一郎(4)/ 大畑 央樹(1,2,3,5)		
9診	心エコー	心エコー	内分泌・糖尿病 森川 俊太郎	循環器新来	心エコー	心エコー	心エコー	心エコー	循環器 永井 礼子	循環器 永井 礼子
予診室	神経 白石 秀明	神経 白石 秀明	神経処方	神経処方	神経処方	神経処方	内分泌・CCS 菱村 希/金子 直哉	内分泌・CCS 菱村 希/金子 直哉	内分泌・糖尿病	
	神経処方	神経処方	神経 植田 佑樹	血液 寺下 友佳代	神経処方	内分泌・糖尿病 中村 明枝				
その他										



循環器グループ

先天性心疾患はもとより、一次性心筋症や代謝・神経筋疾患に伴う心筋症、不整脈等幅広く診療しております。学校検診で心雑音や心電図異常を指摘され紹介された際はお気軽にご相談下さい。

新生児グループ

乳児健診で紹介された際や、嘔吐、便秘、お臍などが出ている気がするなど赤ちゃんのことで気になる事があればご相談下さい。NICUを退院した子が元気に発育・発達しているかなども診療しております。

遺伝・染色体グループ

遺伝性疾患がどのようなものか、次世代や次の子の事、本人やご家族が注意すべき事などをお話ししながら、定期的な検診方法、療育の相談に乗っていただければと思います。

代謝グループ

マスキング対象疾患が拡大される傾向にあり、以前は見つかりにくかった疾患が早期に見つかるようになってきました。早期発見早期治療が重要な事もありますので紹介されましたらお早めに受診下さい。

感染症グループ

指定の週になりますが小児感染症患者を診察しております。院内感染に対する対策や感染症診療に関する相談も受けておりますのでお気軽にご相談下さい。

外来診療のご紹介

当院麻酔科の特徴は、大学病院ならではの豊富な経験に基づく臨床の実践です。集中治療室を含めた周術期(術前、術中、術後急性期)の全身管理だけではなく、慢性疼痛治療のペインクリニック外来、がん性疼痛含めがん患者の苦痛にたいする緩和ケアチームの担当、また高気圧酸素治療と幅広い診療を行っております。

麻酔前診察・周術期管理

麻酔科外来では、安全な周術期管理ができるように麻酔前診察を行っております。当院では、非常にまれな疾患を含め様々な疾患に対応しており、難易度の高い手術や長時間手術、また新生児から高齢者まであらゆる年齢層を対象として多くの手術が行われております。このため、麻酔管理にも多岐にわたった知識が必要とされます。予定された手術に最適な麻酔方法、また周術期を合併症なく快適に過ごせる麻酔方法を選択し、説明しております。麻酔方法としては全身麻酔だけではなく鎮痛を目的とした多様な神経ブロックも含まれます。説明の際は実際に使う麻酔の器具も提示して、麻酔を受けられるご本人・ご家族の不安を少しでも軽減できるように努めています。また、重症患者の術後管理を行う集中治療室にも麻酔科医が常勤しており、術前から術後まで一括した管理が安全に行えるような体制を整えております。

ペインクリニック外来

ペインクリニック外来は毎週月・水・金曜日に行っています。主に慢性の神経障害痛と呼ばれる難治性の痛みの治療を行っております。診察、画像検査などで疼痛を評価したのち、病態に合わせ内服治療や神経ブロック、レーザー治療などから適切な治療法を選択し、痛みの軽減を目指します。特にレーザー治療は、キセノンレーザー光治療器、近赤外線治療器、半導体レーザー治療器を備え、適応によっては低侵襲で神経ブロックに準じた効果をより安全に得ることが可能です。必要と判断した場合は、X線透視下に深部への神経ブロックも行います。

緩和ケアチーム

がん患者の苦痛緩和、特に疼痛を含む身体症状の緩和を目的に麻酔科医師が中心となって緩和ケアチームが活動しております。様々な鎮痛薬を駆使し病状によっては神経ブロックも行っております。また、チームには他職種の医療者が所属しており、それぞれの専門性を活かして、倦怠感や食欲不振、精神的な落ち込み、不眠などの症状に対してトータル的なケアを行っております。

高気圧酸素治療

高気圧酸素治療とは気圧の高い環境下で純酸素を吸入することで、組織の低酸素などから起こる障害を治療する方法です。当院では第2種高気圧酸素治療装置を設置しており、同時に多人数の治療が可能となっております。治療対象としては突発性難聴、放射線障害、皮膚移植後の血流障害など多くの適応疾患があります。緊急度が高い一酸化炭素中毒や減圧症などの症例への対応も行っております。1回に1時間半程度の時間を要する治療であり、1日に数回施行しておりますが、患者数が多い場合には院内の患者様の治療を優先させていただくことがありますので、ご了承ください。

【担当医師】

術前診察

月曜日～金曜日(午前) 1～2名 当院麻酔科医師

ペインクリニック外来

月曜日	水曜日	金曜日
森本 裕二 黒川 達哉	伊藤 智樹	宮田 和磨

リハビリテーション科診療のご紹介

リハビリテーション科では脳血管障害、頭部外傷、骨関節疾患、神経筋疾患、脊髄損傷、四肢切断、呼吸器・循環器疾患、悪性腫瘍などさまざまな疾患のリハビリテーション診療に院内各科と連携して取り組むとともに、専門外来で医療機関からのご紹介に対応しております。現在は2022年8月より赴任した向野雅彦教授のもと、新しい体制で以下の診療を実施しております。

高次脳機能障害

交通事故などによる外傷や脳卒中等に伴ってみられる、記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害などの高次脳機能障害の外来診療を行っております。これらの障害は日常生活や社会生活にさまざまな問題を生じますが、日常会話程度のやり取りでは一見問題がないために見過ごされているケースもあり、“見えざる障害”として問題となっています。

当院は、厚生労働省の「高次脳機能障害支援普及事業」地方支援拠点機関として、また、北海道高次脳機能障害者支援事業の「支援拠点医療機関」として高次脳機能障害専門外来を設置し、高次脳機能障害に対するリハビリテーションや高次脳機能障害者のリハビリテーション支援コーディネーター事業に取り組んでいます。入院による評価や訓練もおこなっており、高次脳機能障害者の社会復帰や生活支援をサポートしています。

痙縮

痙縮は脳血管障害、脳性麻痺、頭部外傷、脊髄損傷、神経変性疾患などさまざまな原因で生じる異常な筋緊張の亢進で、歩行や更衣などADLを阻害したり、疼痛を生じることによってQOLを低下させます。リハビリテーション科では、痙縮に対し内服治療やボツリヌス毒素治療をおこなっています。ボツリヌス毒素治療は、ボツリヌス毒素製剤を筋内に注射することで、標的となる筋の異常な筋緊張を改善し、その効果は3~4カ月程度持続します。入院および外来での施注に対応しています。



ボツリヌス毒素治療



摂食嚥下障害

食べることや飲み込むことが上手にできなくなる、むせてしまうなどの症状がある方は摂食嚥下障害が疑われます。その原因として、口腔や咽頭、食道の癌など器質的な異常によるものや、脳血管障害や神経変性疾患など機能的な異常によるもの、さらには加齢に伴う嚥下機能の低下によるものなど、さまざまなものが挙げられます。リハビリテーション科では、嚥下内視鏡検査や嚥下造影検査を実施し、摂食嚥下障害の評価をおこない、安全に食事が続けられるよう対応法を検討します。必要に応じて嚥下のためのリハビリテーションを実施し、食事の形態の調整や、食事の際の姿勢や食べ方の工夫などを提案します。

経頭蓋磁気刺激療法

脳血管障害などの後遺症による難治性の中枢性疼痛や、脊髄小脳変性症など神経疾患に対する経頭蓋磁気刺激療法をおこなっています。入院での磁気刺激療法とリハビリテーションを組み合わせることで実施し、日常生活活動の改善をはかります。

装具診察

脳性麻痺やポリオ後症候群、また脳血管障害などさまざまな原因による手足の麻痺や痛みのため日常生活に不自由があり、装具の適応に迷う場合は当科でご相談をお受けしております。

外来担当医

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
向野 雅彦 (高次脳機能)	小川 真央 (痙縮等)	向野 雅彦 (痙縮、装具) 遠山 晴一 (運動器)	向野 雅彦 (高次脳機能)	-

矯正歯科のご紹介

矯正歯科は、歯並び、かみ合わせの診療を専門とする外来として、昭和45年に北海道大学病院歯学部附属病院に開設されました。診療内容は歯並びかみ合わせの治療に関連し、顎の成長発育、頭蓋顎顔面の先天性疾患、顎変形症を含め、幅広く診療しています。2023年6月15日現在、当科所属の歯科医師は35名ですが、そのうち日本矯正歯科学会指導医8名、臨床指導医2名、認定医14名(重複あり)となっております。

外来診療

年間で300名を超える新患の方の治療に当たっており、「長期間安定する正しく美しい歯並び・かみ合わせ・顔貌の獲得」を目的としています。治療に際しては、不正咬合の状態を形態・機能の両面からの確にとらえることで、正しい咬合を獲得するための選択肢を設定し、患者さんのご希望をふまえた上で最終的な治療方針を決定しています。当科では一般的な歯科矯正治療はもとより、顎変形症や口唇口蓋裂をはじめとする先天性疾患、あるいは顎機能異常を有する患者さんが新患の4割を占め、これらの患者さんについては、必要に応じて、関連医科・歯科診療科と各種カンファレンスを定期的で開催し、綿密な連携を取りながら対応しています。また当院では、他科と連携しやすい利点を生かし、アンカースクリュー、アンカープレート等の各種矯正用インプラントを用いた歯科矯正治療、再生医療の概念に基づいた歯科矯正治療等も行っております。

顎変形症カンファレンス

月に1回(原則第2水曜日) 外来および会議室でのカンファレンスを行っています。上下顎骨の骨格的な形態・位置の異常により不正咬合や顎口腔機能異常が認められ、改善のために外科的な手術が必要な患者さんが対象です。このカンファレンスにおいては、口腔内科、口腔外科、冠橋義歯補綴科、高次口腔医療センター顎口腔機能部門、矯正歯科の歯科医師が参加しています。



口蓋裂カンファレンス

2月に1回金曜日に外来でのカンファレンスを行っています。口唇口蓋裂に起因する様々な不正咬合や顎口腔機能異常が認められる患者さんが対象です。このカンファレンスにおいては、口腔外科、義歯補綴科、小児歯科、高次口腔医療センター顎口腔機能治療部門、矯正歯科の歯科医師及び言語聴覚士が参加しています。

Maxillo-Facial (MF) カンファレンス

月に1~2回木曜日に形成外科外来でのカンファレンスを行っています。顎顔面部に様々な原因から機能的、形態的な問題を抱えている患者さんが対象です。このカンファレンスにおいては、形成外科の医師と口腔外科、冠橋義歯補綴科、矯正歯科の歯科医師及び生体技工部の技工士が参加しています。

診療体制(予約制)

	初 診	再 診
受付時間	9:00~15:00	9:00~16:00
診 療 室	第1診療室	第3診療室

産学連携 栄養管理部の取り組み～MIND食について

栄養管理部 副部長 熊谷 聡美



栄養管理部ではこれまで、2015年出版のレシピ本「北海道大学病院のおいしい健康ごはん」(地元新聞社出版)をはじめ、文部科学省 COI(センターオブイノベーション)との取り組みとして『食と健康の達人』をテーマに、100kcalのゼリーやクッキー、たんぱく質をしっかりと含んだおいしい「うしからもらったアイス」、国民の“いつの間にか減塩”をめざした無塩パンのレシピ開発や、コンビニ・製パン業者とのコラボパン「塩を加えずに焼き上げたロールパン、2種の豆パン」の開発にかかわってきました。2022年にはパーソナルヘルスセンター(PHC)開設にあたり栄養食事指導を担当する関係からお声がけいただき委員に加わりました。『食』の面でのかわりができないかと思案し、PHCでは遺伝子検査で様々な病気の予測ができ、今後患者数が増えていくことが見込まれる認知症を重要項目のひとつに掲げ、今回、認知症に焦点をあてた健康食:MIND食を取り上げ、当別町のレストランとコラボし、弁当などを開発しました。商品は6種類で、白身魚に十六穀米などを組み合わせた減塩のお弁当や、オリーブオイルを使用し全粒粉と卵白で作ったシフォンケーキなど。MIND食を通し普通の食生活の見直しに繋がるツールのひとつとして、様々な食の場面で継続的な提供ができることを目指したいと考えています。

MIND(マインド)食とは?

Mediterranean - **D**ASH diet **I**ntervention for **N**eurodegenerative **D**elayの頭文字を並べたもので、“地中海式 DASH食による神経変性を遅らせるための介入”とも訳され、**脳**の老化を遅らせるために開発された食事法です。

MIND食の研究: 米国 シカゴにあるラッシュ大学で行われた、ラッシュ記憶・老化プロジェクト(MAP)に参加した、58-93歳の900人以上の食生活を解析した研究から、研究者の考案したマインド食に、より近い食生活の人ほど認知機能の低下速度の遅れやアルツハイマー病の発症が少ないことが明らかになりました。

MIND食の基本: 健康食で知られる地中海式食と、血圧低下を目的に開発されたダッシュ(DASH)食、さらに過去の研究から認知機能の低下に効果があることが検証された食品を組み合わせた食事法です。

MIND食で推奨する10の食品と、減量をすすめる5の食品、およびこれらの摂取頻度が示されているのが最大の特徴です(図1) 皆さんも日頃の食生活の中に数品、意識して加えてはいかがでしょうか。

MIND (マインド) 食

推奨する10の食品と減量を勧める5の食品 摂取頻度

推奨食品	食べる頻度	減量推奨食品	食べる頻度
全粒穀物	3回以上/日	ペストリーと菓子*	5回以下/週
緑色の葉物野菜	6回以上/週	赤身肉と肉加工品	4食未満/週
その他の野菜	1回以上/日	チーズ	1回以下/週
ベリー類の果物	2回以上/週	ファーストフードや揚げ物**	1回以下/週
種実類	5回以上/週	バター、マーガリン	1回未満/日
豆類	3食以上/週		
魚(揚げ物以外)	1食以上/週		
鶏肉(揚げ物以外)	2食以上/週		
ワイン	グラス1杯/日		
オリーブオイル	メインの油として使用		

*タルト、ケーキ、デニッシュ、ドーナツ、クッキー、パイ、チョコバー、シェーク等
** フライドポテトやナゲット等を含む



図1



北海道大学病院 各窓口のご案内

<ul style="list-style-type: none"> ○ 在宅療養支援・在宅福祉サービスに伴う相談について ○ 転院・転医先の病院、施設の紹介・調整について ○ 訪問看護・介護保険サービスに関する文書管理について (ケアプラン照会・軽度者レンタル・通所/入所等) <p style="color: red;">2023年4月～以下の窓口が、地域医療連携福祉センターに変更になりました</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ かかりつけ医相談 ○ 逆紹介 	<p>地域医療連携福祉センター</p> <p>TEL:011-706-7943 FAX:011-706-7945</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○ がんに関するご相談(電話・対面) ○ がんゲノム医療、陽子線治療に関するお問い合わせ 	<p>がん相談支援センター</p> <p>TEL:011-706-7040</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○ 初診患者さんの外来予約 ○ PET/CT・RI検査の申し込み受付 ○ セカンドオピニオン外来の予約受付 <p>※予約は、患者さん自身でお取りいただく方法と、医療機関を介してお取りいただく方法がございます。どちらの予約方法でも申し込みできますが、できるだけ医療機関を通しての予約をお願いします。</p> <p>各種予約方法に関する詳細は、当院ホームページをご覧ください。</p>	<p>医事課初診予約係</p> <p>TEL:011-706-6037(医療機関) TEL:011-706-7733(患者個人) FAX:011-706-7963</p> <p>ホームページ http://www.huhp.hokudai.ac.jp/</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○ 公的負担医療・障がい者手帳について ○ 主治医意見書(介護保険・障がい福祉サービス)について ○ 生活保護に関するご連絡について 	<p>医療福祉相談室</p> <p>TEL:011-706-5646</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○ 特定の診療科に関するお問い合わせ 	<p>代表番号</p> <p>TEL:011-716-1161</p> <p>※代表番号にお掛けいただき、問合せ先診療科をお伝えください。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域医療連携協定に関する事務について ○ 患者情報共有(ICT)ネットワークに関する事務について ○ 各医療機関への案内文発送について 	<p>医療支援課地域医療連携係</p> <p>TEL:011-706-5629</p>

編集後記

2022年4月1日より地域医療連携福祉センター副看護師長を拝命しました安藤亜希子と申します。当部署の転院・在宅調整件数は年々増加しておりますが、各医療機関の皆様のご配慮、ご理解、温かい連携にいつも助けられています。不慣れな点、ご迷惑をおかけすることもございますが、今後も誠心誠意、この仕事に向き合っていきたいと思っております。

発行 令和5年7月

北海道大学病院
地域医療連携福祉センター

〒060-8648 札幌市北区北14条西5丁目
TEL:011-706-7943(直通)
FAX:011-706-7945(直通)
<http://www.huhp.hokudai.ac.jp/relation/>